



学校だより 1月号

石川小学校 学校教育目標
育てます。「石川魂」

令和6年1月12日
横浜市立石川小学校
校長 寺園 淳

新たな一歩を踏み出す

校長 寺園 淳

はじめに。令和6年1月1日に発生した能登半島地震により被災された多くの皆様に心よりお見舞いを申し上げます。自然災害はいつどこで発生するか分かりません。その時に備えて石川小学校では防災教育をしっかりと行っていきます。石川魂にもある自分たちのまちを愛する心から、共助の姿勢を育てていきたいと考えます。

改めまして。力強く輝く初日と共に新しい年を迎えました。私は毎年、近所の初日の出スポットにご来光を浴びに行きます。不思議なもので太陽は毎日上りますが、元旦だけは格別なものに感じます。その日の光を浴びることで、新しいエネルギーが湧き上がってくると感じるの、私だけではないと思います。昨年は保護者の皆様、地域の皆様のおかげで、創立150周年を盛大に祝うことができました。石川小は長い歴史の中で多くの人がつながり、伝統を紡いできました。温かみのある子ども同士のつながり、地域のとのかかわりも一つの伝統であり、誇りだと思えます。これまでに築き上げてきた伝統を胸に、子どもたち、保護者の皆様、地域の皆様、そして教職員が一つとなり、更なる高みを目指していきたいと考えます。

私の正月の恒例その2として、東京箱根間往復大学駅伝競走のテレビ観戦があります。テレビの前に陣取り、その様子に声援を送り、一人で感動しています。その時、テレビからは様々な選手のプロフィールが紹介されています。その中には、高校時代は無名の選手だったが、この駅伝競走に必ず出場するという強い意気込みをもって練習に取り組んできた選手。その他の大会には目もくれず、箱根を目指すことだけに力を注いだ選手。そのほかの選手もそれぞれが目標を立て、その目標に向かってひたむきに努力する姿があったことが報じられていました。私は冬休み前の朝会で、子どもたちに新年を迎えるにあたり、元旦に1年の目標を立てるとよいことを話しました。自分を高めるためには目標に向かって努力する、「勇往邁進」する姿が必要だと思っています。子どもたちには、自分が立てた目標に向かって粘り強く取り組むことで、石川魂を体現してほしいです。

石川小は今年度、社会情動的コンピテンシーと学力の関係についての調査研究に取り組んでいます。学校行事等で主体性や意欲を育み、その力が学習にどのように生かされるかを研究しています。これまでもそうであったように、石川の子どもたちは行事を通して大きく成長します。自分事として向き合うことで石川小が大切にしている主体性を育み、学習に生かされることを期待しています。今年の干支は辰です。辰年は活力が旺盛になって大きく成長し、形が整う年だといわれています。子どもたちにはこれまでに身に付けてきた力を発揮し、自分に自信がもてる年になってほしいと願っています。未来を築く石川っ子のために、保護者の皆様、地域の皆様のお力添えを引き続きよろしくお願いいたします。